



## <個>

---

<命>はそれを全うすることを通じて、それが<命>であることを証明する。

終わりになき命はないのだから。

<個>は、消滅することによって、<種>の一部であることを証明する。

<種>は、<個>の消滅を前提として、存続しているのだから。

<種>は、<個>の有限性の中でのみ、その存在理由を持つ。

それゆえにこそ、<個>に種族保存の本質が内在化する。

そんな営みの繰り返しの中で、<愛>という特殊形態が誕生した。

この<愛>の誕生によって、<命>に新たな意味が付与され、解釈された。

<個>の消滅に、<愛>からの新たな解釈が誕生した。

ぼくらはそれによって、微小な命にも、新たな意味づけをするようになった。

たとえ、避けられない<個>の消滅さえも、<愛>がそれに意味づけを行う。

<個>は消滅し、<種>がそれによって存続する。

そこに<愛>がどんな解釈を加えるというのか。

すなわち<愛>という概念は、近代的自我の確立、すなわち物質的には近代民主主義の確立によってのみ、概念としての自らを完成させたというべきではないか。

マックスウェイバーのプロテスタンティズムの研究、丸山真男の近代自我の研究の可能根拠は、そうしたあたりにあるような気がしてきた。

神の前で<個>として対峙する人間という存在は、実は近代的自我を前提としており、そこに<愛>が定義づけられていること自体、<愛>に歴史性が刻印されていることを、存在論的に証明しようというべきであろう。

そして僕らは今日もそれに価値意識を支配されているのだ。

それがいいとも悪いとも、ぼくは考えていない。

それは、抜け出すことができないからだ。

なぜなら価値意識そのものに歴史性を超克した普遍性を見出すことはできないからね。

価値意識の歴史性の自覚そのものも、歴史的な産物なのだよ。

ではそのことの自覚が、この苦しみから解放をもたらすというのか。

いや、変わらない。なにも変わらない。

変わらないことこそが、歴史性刻印の証しなのです。

# ボロボロ

---

何を大切に生きてきたか。  
たとえ、それ以外がボロボロだったとしても。

自分の受けてきた苦しみや辛さを、  
どうか他の人は受けないように、と望めるか。  
あるいはその逆か。

それによって、社会観が変わるよね。  
政治や戦争に対する考え方も。

ぼくはひっそりとした、力強い自然が好きだ。  
害虫だとか何だとか、くだらない一方的な評価を超えて。

ルッコラの葉っぱの上で、カメムシが交尾をしていたよ。  
だから邪魔はしなかったんだよ。

キミは邪魔されたいのかい？

何を大切に生きてきたか。  
たとえ、それ以外がボロボロだったとしても。

ねえ、カゲロウがクモの巣にかかってしまったよ。  
君ならどっちの味方をするんだい？  
そこに正解はあるのかい？

正解のない仕事をしている。  
でも、正解だと信じてるんだな。  
信じられなきゃ、この一步を踏み出せないからね。

終わり方について、考えるのは止めよう。  
でもそれが難しければ、とことん考えよう。  
終わり方を。だってそうだろう？

生まれ方は、誰も決められないから。  
だから終わり方って、生き方の話だよな？

何を大切に生きてきたか。  
たとえ、それ以外がボロボロだったとしても。

いいじゃないか！自分なんて。  
その次に考えれば、いいことじゃないか。  
その次の次でもいいさ。  
考える時は、どうせ真剣なんだから。

すべては中途半端なんだよ。  
だから、すべてはバランスなんだよ。

それが下手で、何が悪い？

何を大切に生きてきたか。  
たとえ、それ以外がボロボロだったとしても。

# 嘘

---

眠れればいい。

そのための手段を考える。

楽しければいいかって

それはそうでもない。

退屈そうにしているほうが

実は満たされていたりもする。

5時を回ったね。

つまり、おはようじゃないか。

地球が回ると

あいさつも回るね。

good night

good morning

good evening

回されてることを

たまに振り返るといいね。

カレンダーは平面だけど

地球は丸いからね。

どっちも真実なんだけど

どっちも嘘をついている。

どんな嘘かについては

今日はもう言わない。

だってほら

空はもう明るいじゃないか。

## 愚痴

---

どこまでも走れる自信がある。  
愚痴や悪口を聞かないならね。  
それを聞いたら、ダメになる。  
エネルギーを吸い取られるね。  
だから、それを禁止にしてる。  
どこまでも走れる自信がある。

人が好きだけど、  
人が嫌いだ。

ひとりが好きだ。  
仮面をかぶっているけどね。  
笑顔とか振りまいたりね。  
それも自己防衛策。  
絵を描いたりしたいんだ。  
歌を歌うのもいい。

空はどんな色？

うん。  
ステキじゃないか。

ぼくはぼくの足音を口ずさむ。

さあ、また仮面をかぶるよ。  
それも慣れてきたからね。